

幼児がうたいたす時

— 3歳児の自発的歌唱行動の観察 —

渡 辺 優 子

A Report on Spontaneous Singing of an Infant

by

Yūko Watanabe

I はじめに

子供が歌わなくなったとは、昨今、よく言われている。確かに、大勢で歌い遊ぶという光景を目にすることは、少なくなっている。この原因の一つに遊び方が変わってきたことも考えられる。加藤隆勝氏は、1973年に小学校5・6年生を対象とした調査で、古くから行なわれて来た遊びが、かつては主流をしめていたが、そのしめる割合が年々少なくなって来ていると指摘している⁽¹⁾。そして、その古くからの遊びの中に、いろいろの遊び歌を伴なうものが含まれている。しかし、幼児の場合、家で歌っていることは、よく目にすることであり、テレビの主題歌をいつのまにか覚え、得意気に歌ってくれたりする。伊藤勝志氏は、1975年に、4歳児と2歳児を1ヶ月間観察し、その間、前者は385回、後者は221回、単純平均で、1日に12回歌ったと述べている⁽²⁾。このように強く、幼児を歌うことに関心するのは、なんだろうか。又、幼児が歌うことは、どのような意味があるのか。伊藤氏は、幼児の歌唱のすべてに対して観察しているが、幼児が他の歌唱につられて歌い出した場合を除いて、自分から歌い出した、自発的な歌唱行動を調べることによって、歌の意味が、一層はっきりと見いだされるのではないか。

以上の観点により、幼児の歌唱を観察してみることにした。

II 観 察 方 法

3歳3ヶ月の女兒を、1981年7月22日より7月28日までの7日間、家庭において観察し、自発的な歌唱行動がおこった時の、子供の状態と、歌の内容を筆記する。自発的歌唱行動とは、次の事項とした。

・他者といっしょに歌ったもの、又は、他者が歌わせたものは除外し、自分から歌い出したもののみとする。

・鼻うた、かけ声、擬音語も、リズム、メロディーを感じられるものは、含める。

III 対 象 児

家族構成は、父、母、弟（1歳）がある。両親共働きのため、2歳より保育園へ行っている。保育園から帰ると、近所の人々の所へ行く。時々、祖父母の家に行くこともある。

体格は普通で、性質は元気がよいが、気分屋で、自分の主張を通そうとする。1人遊びでは、人形遊びを好む。友達と遊ぶことも、とても喜び、かけ回ったり、水遊び、砂遊びが好きである。3歳児としては、標準的な心身の発達状態にあると思われる。

歌を歌いはじめたのは、2歳の頃よりである。テレビは、夕方1～2時間、マンガ等の子供番組を見る。保育園では、生活の歌、季節の歌、手あそびの歌、わらべ歌等を歌っている。家では気に入りの童謡のレコードが1枚あって、よくそれを聞いている。いろいろな機会に母親と歌う。時々、ピアノにあわせて歌うこともある。祖母からも、特に2歳のころは、よく歌を教えてもらっていた。

Ⅳ 観 察 記 録

7日間を通し、34回の自発的歌唱行動を記録し、通し番号をつけた。

1日を、午前、午後、夕方及び夜の3つに区別した。

多様な歌唱行動がみられたので、記録を全部、次に掲載する。

表1

月 日		番 号	記 録
7・22	午 前	①	廊下で、ハンカチをふりながら鼻歌
		②	母親と、ゴミ出しに行つて、帰るまでの間歌う。 「海は広いな大きいな、月のはぼるし日はしずむ」
		③	母親に赤いゴムでまげをゆってもらつて鼻歌
		④	野菜売りのおばさんから、おつりをもらつて、それをはなさずもち、スカートでつつんで鼻歌
	午 後	⑤	おしっこをして、部屋に走つて来て「シュッシュッポッポ」
		⑥	ハンカチを、扇風機の前でひろげ、風になびかせて 「こいのぼり、大きいまごいはお父さん、小さいひごいはこどもたち、おもしろそうにおよいでる」
		⑦—1	クレヨンを箱にならべてあそんで「こどもたち」（「こいのぼり」のふし）を4回くりかえす。
		⑦—2	同じ動作で「ねしょんで」これを3回くり返す。
7・23	午 前	⑧	外遊びから帰つて来て、牛乳を出してもらつて飲んで、イスにこしかけて、大きい声で「めだかの学校」1番を全部歌う。
		⑨	公園のブランコにのつて鼻歌「たぬきはね、たぬきはね、おてらやさん、ひげをはやした、たぬきはね」
	午 後	⑩	公園より「コブタヌキツネコ」を歌いながら帰る。
		⑪—1	水あそびから帰つて、気に入りのドラエモンの浮輪を首にかけて、「ファンファン、とっても大すきドラエモン」
7・24	午 前	⑪—2	そのまま、廊下を行ったり来たりして、「ビューワーン、ビューワーン走る、青い光の超特急、時速250キロ、ファンファン、走る」
		⑫	枝豆もぎをじっとみていて、立ちあがり、鼻歌
		⑬—1	カサをさして、ゴミ出しに行きゴミを置いて帰る時に 「かわいい、かわいい木の芽から、お花がお花が顔出して、ゆらゆらゆらこんにちわ」
		⑬—2	「雨々ふれふれかあさんの、あとからゆこゆこ走つてく、ピッチ

月 日		番 号	記 録	
7・25	夕 方	⑭	ピッチチャップチャップランランラン」 外遊びから帰って来て、果物を食べ、浮輪をおいて、中にすわり こんで、「お船だよ」と言って、「海」の1番を2回歌う。	
	午 前	⑮	外で水遊びをして、ジョロで水をまいて、「雨々ふれふれかあさ んが」を何回もくり返す。	
7・26	午 後	⑯	家族で、車によって海へ行く。車の中で「海」を歌う。	
	午 前	⑰	公園の砂場のふちのコンクリートの上を歩いて「まあるいまある いーからーがーが顔出して」 (一は間があいた所)	
7・27	午 前	⑱	公園の回旋塔に乗って	
		⑲	「ゼンダーアクマ、ゼンダーアクマ、ポッポー、ポッポー」 気に入りの人形をふりまわし、手遊びの歌「これくらいのおべん とばこに」を歌う。	
		⑳	おもちゃの自動車の上に人形をのせて遊んで、「ゼンダーアクマ、 ゼンダーアクマ、ポッポー、ポッポー」5回くりかえす。	
		㉑—1	人形を2つ持って「あそぼう」と言って「かごめかごめ」を歌う。	
		㉑—2	同じ動作で「こどもとこどもがけんかして」を歌う。	
		㉒	水遊びから帰って来て、裸で、「ゼンダーアクマ、ゼンダーアク マ、ポッポー、ポッポー」	
		㉓	パンツをはかせてもらいながら、「おしゃらかおしゃらかおしゃ らかほい、ほいほいほい」	
		㉔	パンを買って来て、家の入口で鼻歌	
		㉕	人形で遊んで、「ビューワンビューワン走る、青いミナミの超特 急」	
		㉖	パンを食べて、イスによって鼻歌を歌う。最後は「ドラエモン」 で終る。「何の歌」と聞くと、「おひめさまと花火のうた」	
		夜	㉗	父親を出むかえて「ブタニク、タマネギ」(カレーライスの歌の 1部分)
		7・28	午 前	㉘
㉙—1	人形を自動車にのせて「ゼンダーアクマ、ゼンダーアクマ、ポッポ ー、ポッポー」			
㉙—2	同じ動作で「ビューワンビューワン走る、青いミナミの超特急」			
㉚	汽車で遊んで「ゼンダマアクマ、ゼンダマアクマ、ポッポー、ポ ッポー」これを、調をかえてくり返す。			
㉛	人形で遊んで鼻歌「なべはばんつつつ、なべはおしりだよ、おし りをだして、なみちゃん」			
㉜	人形で遊んで「ビューワンビューワン走る、青いミナミの超特 急」			
午 後	㉝			公園の砂場のふちから「からすなぜなくの、からすは山に」と歌 ってからとぶ。
夕 方	㉞			画用紙をいじって「おてらのおしょさんが、かぼちゃのたねをま きました」

V 考 察

1 歌った時は、家族の中のみであった。来客の時、又は、友達と遊んでいる時は歌わなかった。

2 歌いはじめた時の子供の状態についてまとめて見ると、次のようになった。

- 散歩している時 ②⑩⑬—1⑬—2⑳ 5例
- 物を持って遊んでいる時 ①④⑥⑦—1⑦—2⑪—1⑪—2⑭⑮⑰⑲⑳㉑—1㉑—2⑳⑲⑳—1㉳—2⑳⑳⑳⑳⑳ 21例
- 遊んでいる時（遊具を使ったり、とんだりした時）⑨⑰⑱⑳ 4例
- 世話をしてもらった時（着がえの時等）③⑳ 2例
- 生理的に気持がよい時（排泄のあと等）⑤⑳ 2例
- 食べたり飲んだりした時 ⑧⑳ 2例
- うれしくて ⑯⑳⑳ 3例
- 集中して見て、それから ⑲ 1例

以上の通り、遊んでいる時に歌った例が多い。次に、散歩している時、生理的に気分のよい時、うれしい時等が続いている。

3 歌った時間帯

午前 ①～⑥⑦—1⑦—2⑨⑩⑫⑬—1⑬—2⑮⑰⑱⑲⑳㉑—1㉑—2㉒～⑳⑳⑳⑳⑳
28例

午後 ⑧⑪—1⑪—2⑯⑳ 5例

夕方及び夜 ⑭⑳⑳⑳—1㉳—2⑳⑳ 6例

以上の通りとなり、午前中に1番よく歌った。午前中は、割合機嫌がよく、1人遊びをよくし、その時に多く歌われた。

4 歌われた歌の種類

(1) 既成の歌について、その曲名

- 「海」(②⑭⑱)
- 「こいのぼり」(⑥⑦—1)
- 「めだかの学校」(⑧)
- 「コブタヌキツネコ」(⑩⑳)
- 「ドラエモンのうた」(⑪—1)⁽³⁾
- 「走れ超特急」(⑪—2⑳⑳—2⑳)
- 「かわいい木の芽から」(正確な題は不詳)(⑬—1⑰)
- 「雨ふり」(⑬—2⑰)
- 「これくらいのおべんとばこに」(⑲)
- 「ゼンダーアクマ」(テレビの主題歌の1部分らしい)(⑳⑳⑳⑳⑳)
- 「かごめかごめ」(㉑—1)
- 「こどもとこどもが」(㉑—2)
- 「おしゃらかホイ」(㉳)
- 「カレーライス之歌」(㉷)
- 「7つの子」(㉳)
- 「おてらのおしよさんが」(㉷)

以上16曲、28例ある。

(2) 鼻歌や、自分で作った歌及びかけ声等 ①③④⑤⑦—2⑨⑫⑭⑮⑳㉑ 10例ある。

5 既成の歌について、どこで覚えたか

- レコード 「海」「こいのぼり」「めだかの学校」「雨ふり」 4曲
 - 保育園 「かわいい木の芽から」「カレーライス之歌」「かごめかごめ」「おしゃらかホイ」「走れ超特急」 5曲
 - 母親、おばあちゃん 「コブタヌキツネコ」「これくらいのおべんとぼこに」「こどもとこどもが」「おてらのおしょさんが」「7つの子」 5曲
 - テレビ 「ドラエモン」「ゼンダーアクマ」 2曲
- テレビの歌については、1部分を歌うのみであった。

6 歌い方について

(1) 全部通して歌ったもの

②⑥⑧⑩⑪—2⑬—1⑬—2⑭⑯⑰⑱—1⑲—2 12例

(2) 1部分やかけ声又は、1語をくり返し歌ったもの

⑤⑦—1⑦—2⑪—1⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑—1㉒—2⑳㉓㉔㉕ 19例

7 歌い方と子供の動作、状態との関連について

(1) 全部歌った場合

- 散歩や歩いている ②⑩⑪—2⑬—1⑬—2 5例
- すわっている ⑧⑭⑯ 3例
- 人形を相手に遊び歌をやる ㉑—1㉑—2 2例
- 物を持って遊ぶ ⑥⑱ 2例

(2) 1部分やかけ声又は、1語をくり返し歌った場合

- 物を持って遊ぶ ⑦—1⑦—2⑪—1⑫⑬⑭⑮—1㉒—2⑳㉓㉔ 11例
- 遊ぶ(遊具で遊ぶ、とぶ) ⑰⑱⑳ 3例
- 気持のよい時 ⑤⑲ 2例
- うれしい時 ㉑㉒ 2例
- 着物を着せてもらう ㉓ 1例

以上の通りであった。全部通して歌う時は、歩く動作のような規則性がある動きや、すわっている時のような動きの少ない場合が多かった。物を持って歌った⑥の例も、動きの少ないものであった。⑱⑲—1⑲—2の3例は、人形に遊びうたをやらせる目的を持って歌われたと考えられる。

1部分やかけ声、1語をくり返す場合は、物を持って遊んでいる時のような手先の作業を要す時や、全身を使って遊ぶ時、気持のよい時やうれしい時が多かった。

8 歌詞と、それが歌い出された状況とに関連が見られたもの

- ⑥ こいのぼりが風におよぐようす＝ハンカチが風になびくようす
- ⑦—1 「こどもたち」＝たくさんのクレヨンを子供に見たてている。
- ⑪—1 「ドラエモン」＝ドラエモンの模様の浮輪
- ⑬—2 「雨ふり」＝雨の日
- ⑭ 「海」＝浮輪を船にみたてている
- ⑮ 「雨々ふれふれ」＝じょろの雨
- ⑯ 「海」＝これから海へ行く
- ⑰ 「まあるい」＝砂場のまるくなったへりを歩く
- ⑳㉑—1, ㉑—2 ⑳ 「ポッポー」＝汽車で遊ぶ
- ㉑—1 「かごめ」＝人形を2つ持って、友達同志で遊んでいるつもり

⑳-2 「こどもとこどもが」=㉑-1と同じ

以上14例あった。子供なりに、言葉と動きの関連性を感じているのではないかと思う。たまたま、その場面にあった歌やことばが出てこない時は、よく知っている歌や、鼻歌、自分で作った歌で代用しているのではないかと思われる。

Ⅵ ま と め

これまで見て来た通り、子供が歌い出した時は、遊んでいる時、散歩している時が多かった。それについて、うれしい時、食べたり排泄したりした時のような、生理的に気分のよい時が多かった。これらはすべて、快い状態といえる。

又、歌の内容、歌い方と、子供の動作や、心理的、生理的状态との間に、結びつきが見られた。自覚して歌っているのではなく、口から出まかせに歌っているようではあるが、歌の内容やリズムと、動きのリズムの結びつきを感じているようだ。自分の動きにリズムを感じ、それにあわせて歌を歌い、総合的な活動に発展させて、楽しんでいるようである。単に外的な刺激につれて歌うのではなく、総合的な活動として、歌唱行動がおこる点に、幼児の創造性が見られるように思う。

又、このように1人遊びでうたうことは、将来、友達同志で遊ぶ、遊び歌に発展してゆく可能性を持っているのではないだろうか。

今回の観察は、1人の幼児のある一時期の観察であるので、今後、この幼児の成長につれて、どのように歌唱行動が変化して行くのか、見守りたいと思う。又、その他もっと多くの事例を観察し、子供の歌に対する洞察を深めて行きたいと思う。

注1 加藤隆勝「現代っ子」大日本図書 1974 P.99—P.111

注2 伊藤勝志「子どもの歌唱活動について」北海道人文論究第36号 1976 P.27—P.33

注3 楠部工作詞 ばばすすむ補作 菊池俊輔作曲「ドラえもののうた」